子宮頸がん検査を受診される方へ　＊事前に必ずお読みください

子宮頸がんはおよそ 5～10 年という期間を経て、異形成からがんに進行していくといわれています。
多くは、性交渉による HPV(ヒトパピローマウイルス)感染が原因であるといわれています。
子宮頸部の細胞に HPV が感染しても、多くの人は免疫力で 1～2 年以内に HPV が消失します。
ところが約 10%の人は HPV が消失せずに感染を持続してしまうことがあり、その結果、一部ががん化していく可能性があります。

＊ 性交渉の経験がない方は、検査の必要はほぼありません。
＊ 正しい検査結果を得るためにも月経（生理）中は避けて検査をお受けください。
＊ 股関節の手術後など開脚に不安がある方はお申し出ください。

子宮頸部細胞診　子宮頸部の細胞の変化を調べます。

子宮頸部の細胞を採取して顕微鏡で調べる検査です。この検査により、子宮頸がん疑いの細胞だけでなく、HPV 感染によってがんに進行する異形成といわれる状態が疑われる細胞を発見できます。

ＨＰＶ検査　HPV(ヒトパピローマウイルス)感染を調べます。（　オプション料金　税込み 5,500 円　）

細胞診と同時に採取した細胞が、子宮頸がんの原因である HPV に感染しているかどうかがわかります。
子宮頸部細胞診と HPV 検査を併用することで、子宮頸がん（がんに進行する可能性のある変化）をより確実に発見することが可能になります。

＊子宮頸部細胞診検査後 1 ヵ月以内であれば、検診時に採取した細胞で HPV 検査を追加することができます。
　ご希望の方はお問合せください。（※広域検診を除く）

婦人科診察（内診等）　外陰部に異常がないか視診で確認、また骨盤内臓器を内診によって診察します。

婦人科診察における内診時、腹圧が抜けない方、腹壁の厚い体型の方、残尿が多い方は内診による診察が難しいことがあります。その場合は経腟超音波検査をおすすめします。緊張により力が入ってしまうと、腟やお腹が固くなってしまい痛みを感じやすくなります。内診をスムーズに受けられるよう、深呼吸をしてリラックスするように心掛けてください。

＊内診ではサイズが大きいものは触知できますが、詳細な診断には経腟超音波検査が必要です。内診のみで診断が困難な場合、結果を「判定困難」とお返しすることがありますので予めご了承ください。

経腟超音波検査　子宮や卵巣の画像を描出します。（　オプション料金　税込み 5,500 円　）

子宮全体の様子や厚み、卵巣の状態を超音波で描出することによって、内診ではわからない小さな病変を見つけることが可能です。婦人科疾患がご心配な方には、経腟超音波検査をおすすめします。

＊経腟超音波検査を実施しない場合は内診のみの診断となり、子宮筋腫や卵巣腫瘍、子宮内膜症疑いなどは分かりかねますので予めご了承ください。
＊子宮頸がん検診（細胞診）と同時実施となります。（後日、経腟超音波検査のみを受けることはできません）

子宮を手術された方へ

子宮筋腫や子宮がんの手術は、病気の部位や進行度によりさまざまな手術方法が選択されます。
・子宮全摘（子宮を全部とった場合）後は子宮頸がん検査（細胞診）の必要はありません。
・子宮体部を摘出し子宮頸部を残す手術を行った場合（分娩時の大出血による緊急手術など）は残存子宮頸部から子宮頸がんが発生する可能性があり、検診の対象となります。
手術後に検診を受けるかどうかは、担当医とご相談ください。

北水会記念病院 健診センター
029-303-3005